



連合駿台会報

No.363 令和5年11月15日発行
発行・編集 連合駿台会

発行人 広報委員長・齋藤柳光
編集人 事務局・矢嶋まゆゆ
〒101-0052 千代田区神田小川町三―二二
明治大学「紫紺館」内
電話 (〇三) 三二九六一四七四七
印刷 有限会社 美創

連合駿台会創立七〇周年記念例会開催

令和五年九月十四日、ホテルオークラ東京「平安の間」において、連合駿台会創立七〇周年記念例会が開催されました。当日は理事長、大学幹部などのご臨席を賜り、会員やご家族・ご友人も含め、二百人を超える方々が出席されました。

まず、田村駿会長から次のような挨拶がありました。

本日は創立七〇周年記念大会を、多くの会員の皆さん方と共に祝いできることを大変嬉しく思っております。またご多忙の中、大学側より、柳谷理事長をはじめ役員・先生の方々にもお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

先ほどオープニングで流れておりました曲、初めて聴かれる方は多かったと思いますが、一方、懐かしいという方もかなりいらっしやったのではないのでしょうか。この曲は我々の会の前身であります「茗水クラブ」三五周年の



田村駿会長の挨拶

時に作られた『茗水クラブ讃歌』という曲です。作詞は連合駿台会の第二代会長・長堀守弘さん、作曲は古賀政男先生の後継者で、明治大学マンドリン倶楽部の常任指揮者・甲斐靖文氏、そして伴奏と歌は、我が明治大学が誇るマンドリン倶楽部とグリーククラブのメンバーです。大変豪華なキャストで、感動感激そのものでございますが、皆さん方にとってはいかがだったでしょうか。

さて、前身の「茗水クラブ」誕生から七十年、本日ご出席の方々の中には、まだ生まれる前のことだという方も多数いらっしやるの

ではないかと思いますが、それほど長い歴史と伝統ある素晴らしい会だということになります。では昭和二十八（一九五三年）とは、どんな年だったのでしょうか。世界では先年亡くなられたエリザベス女王の戴冠式、朝鮮戦争は三年ぶりに休戦に至り、人類初の世界最高峰・エベレスト登頂が成功しました。

日本では戦後八年目ということで、ようやく景気は上向きになっていました。二月からNHKがテレビ放送を開始、吉田茂首相の発言により国会が「バカヤロー解散」、伊東絹子さんがミスユニバースコンテストで第三位に入選し、「八頭身美人」という言葉が流行語となりました。そしてそれまで紙幣のみだった十円が十円玉硬貨として発行を開始し、これによって赤電話（公衆電話）が全国の津々浦々まで設置されるようになったということです。映画『君の名は』の大ヒットで、冬にかけて「真知子巻き」が流行しましたし、十二月には、日本初のスーパーマーケット・紀ノ国屋が東京・青山に開店いたしました。そして早川電機（現シャープ）から国産初のテレビが発売されましたが、いくらだったと思われませんか？ 身近な食べ物では「もり・かけそば」が二十円ぐらい、そして封切映画が百円、大学を卒業したエリートが多くが銀行マンになりましたが、彼らの初任給は六千円でした。この時に早川電機は、何と約

十八万円で発売したのです。

では明治大学は？ と言いますと、当初、明治大学は財団法人でしたが、この年に学校法人に組織変更されました。商学部が大変な人気学部で、年々受験生が激増していたという経緯もあり、この年、日本の私立大学では初の経営学部を設置いたしました。

そしてその後の昭和三十九（一九六四）年、前回の東京オリンピックの時、日本を代表する大学づくりを目指すということで、「明友クラブ」が設立されました。この二つのクラブを平成十四（二〇〇二）年に統合して、母校への貢献と会員の進歩を二本柱に、現在の「連合駿台会」が誕生したわけです。この若水クラブ、明友クラブ、そして連合駿台会の七十年間の大きな歩みは、今日の母校・明治大学の発展に下支えを果たしてきたと、確信いたしております。今後は八十年、九十年、百年に向け、世代交代を進めながら、入会して良かったと誇りを感じられるような、活気のある事業運営を目指して進めてまいりたいと考えておりますので、どうか更なるご指導、ご支援、ご協力を賜りたいと思っております。本日は盛りだくさんのイベントを用意しております。どうか美味しいお料理を召し上がりながら楽しい時間を過ごしていただき、一緒に七〇周年をお祝いしたいと思います。本日は、誠にありがとうございます。



柳谷孝理事長からの祝辞

続いて柳谷孝理事長から、次のような祝辞をいただきました。

皆様、こんばんは。まずは連合駿台会創立七〇周年記念例会が、このように大勢の皆さまのご出席で盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。田村会長をはじめ連合駿台会の皆さま、そしてとりわけこれまで長年にわたり連合駿台会を支え続けてこられました諸先輩方、本日は誠におめでとうございませう。

振り返りますと、ただいま田村会長からお話しがございましたように一九五三年の若水

クラブの設立、一九六四年の明友クラブの設立、そして二〇〇二年に両者が統合されました。連合駿台会が発足し、この度めでたく七〇周年を迎えられたわけでございますけれども、この間、各会で活躍するリーダーの皆さまの集う会として、本学の発展のために多大なご尽力を賜っております。中でも、多くの学生たちに対する様々なご支援はもちろんですが、本学の様々な研究の中で、学術賞や学術奨励賞を長年にわたり授与いただくなど、連合駿台会の多くの取り組みに、学校法人明治大学を代表いたしました。改めまして厚く御礼申し上げます。

それにいたしましても、大学に関連した組織や団体はたくさんありますが、コロナ禍の中でも真つ先に対面での例会（懇親会）を再開したのは連合駿台会でございます。その中で毎回百名を超える方々が参加されるのは、それだけ楽しいということだろうと思えますが、加えてこうした多少の困難は乗り越えて前に進む、という連合駿台会の皆さまのパワーに衷心より敬意を表したいと思っております。

ところで、皆様ご承知のように、今年度から全国の大学への入学者総数が入学定員総数を下回る、いわゆる大学全入時代が幕開けすると言われております。今後の少子化を考えますと、大学進学者数がさらに減少していく

ことにならうかと思えます。本学は今年こそ志望者数十万人を超え、実受験者数では全大生中トップでありましたけれども、こうした日本の少子化の影響は避けて通れないと考えて、対応していく必要がございます。たまたま八月三十一日の日経新聞をはじめ全国の主要各紙に、今年定員割れした私立大学がついに五三・三％に達して、過去最高になってしまったという報道がございました。また、私立の短期大学におきましては、九二％が定員割れしたそうでございます。

こうした私立大学の現状を見ますと、変化するこのリスクから現状をなかなか変えられない大学や、あるいはさまざまな課題を抱えながら解決を先送りしてしまう大学に永続的な発展は期待できない……、そうした危機感を持って、本学は未来に臨んでまいりたいと考えています。

具体的にはすでに一昨年の創立一四〇周年記念式典の場におきまして、次の創立一五〇周年となります二〇三二年に向けた本学のありべき姿を示しました。長期事業「MEIJ I VISION一五〇 前へ」を学長とともに公表いたしましたけれども、現在はそのに基づきまして、より具体的なプランや数値目標を組み込みました。中期計画を作成しまして、定期的に進捗状況を確認しながら、各年度ごとの事業計画や予算編成に落とし込んで

で実行をしているところでございます。

本学のこうした次の飛躍に向けた取り組み、そしてそのプランを実現していく上では、私も先頭に立って検討してまいりますけれども、何と申ししましても、連合駿台会の皆様の力添えが何よりも心強いものでございます。どうか皆様には引き続きましてのご指導、そしてご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びになりますけれども、連合駿台会は、次の創立八〇周年、一〇〇周年、そしてその先の未来に向けましてさらに発展されますことを祈念いたしました。私からの祝辞とさせていただきます。本日の連合駿台会創立七〇周年記念例会、誠におめでとうございます。

続いて、連合駿台会の在籍会員の中で米寿を迎えられた大先輩方に、感謝を込めて記念品が田村会長から授与されました。記念品は彫刻家の大家・山田朝彦副会長にお作りいただいたフクロウのペーパーウェイトで、フクロウは知恵の守り神と言われますから、これからも連合駿台会を大所高所からお見守りいただければとの思いが込められています。本日は四名（根田哲雄様・兎玉圭司様・山田憲典様・藤代耕一様）が出席されており、代表して根田氏が壇上で記念品を受け取り、ご挨拶されました。



三遊亭小遊三師匠

続いて記念寄席として、日本テレビの「笑点」でお馴染みの、三遊亭小遊三師匠（昭和四十三年経営学部卒）が登場され、大学の思いつきや笑点の裏話などの後、落語を披露いただきました。記念クラシックコンサートは、藤原歌劇団の名バリトン歌手の三浦克次氏（昭和五十五年法学部卒）が、『見上げてごらん夜の星を』などの馴染み深い曲から、ラテン音楽の名曲『ベサメ・ムーチョ（もつとキスして）』、イタリアの作曲家ヴェルディのオペラ『椿姫』のアリア『プロヴァンスの海と陸』など五曲を披露されました。お二人とも



三浦克次氏

大学在学中に落語、声楽と出会い生涯の仕事とされ、好きなことをやり続けて芸能の道で成功された方であり、会員の皆様から万雷の拍手喝采が送られました。

第二部の懇親会では、ホテルオークラ東京の美味しいフレンチ料理を堪能しました。メインディッシュのローストビーフの上の添え野菜には、「70」の文字も……。



最後は円陣を組み高らかに校歌を

また、本日のお土産をお願いした、ブルミッシュ会長でパティシエの吉田菊次郎氏からも一言ご挨拶いただきました。吉田氏も明治大学ご出身（昭和四十二年商学部卒）です。



吉田菊次郎氏

最後は明治大学應援團による応援歌などの演舞になりますと、会員のボルテージも最高潮に達しました。平安の間いっぱいに来場者全員が円陣を組み、声高らかに明治大学校歌を歌い、明治大学の母校愛あふれる素晴らしい会となり、当山明彦専務理事による中締めで、興奮冷めやらぬまま、盛大に記念例会は幕となりました。

◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略・到着順)



菊池 正紀
昭和五十六年・商学部卒
㈱オス・代表取締役会長
北海道札幌市在住



谷口 弘恭
昭和六十二年・法学部卒
㈱熊谷組
常務執行役員 管理本部長
神奈川県川崎市在住

◆明大ニュース

●第二十六回ホームカミングデーを開催

年に一度、校友やその家族を母校に迎える「第二十六回ホームカミングデー」が十月二

十二日、駿河台キャンパスで開催された。過去最多となる五千九十人もの校友が集い、懐かしい旧友や恩師との再会、学生との交流など晴れやかな秋の一日を満喫した。

アカデミーホールで挙行された記念式典は、フリーアナウンサーの吉澤美菜氏(二〇一一年政経卒)の司会で進行。大城直樹運営委員長(文学部教授)の開会の辞に続き、主催者の柳谷孝理事長は、第一声で「皆さまおかけりなさい」と呼びかけ、「今日は母校の『今』を大いに楽しみ、身近に感じていただくとともに、卒業生であることに大いに誇りを持っていただきたい」と校友らを歓迎した。

続いてあいさつに立った大六野耕作学長は、「来たるべき時代を担える人材を輩出し、研究を推進し、皆さまの力を借りながら次の時代に輝く明治大学をつくってまいりたい」と校友らに向けて、改めて考えを示した。

来賓の北野大校友会長は、「多様性を意味する『ダイバーシティ』という言葉があるが、本学の校友は研究、スポーツ、メディア・芸能など各界に多様な卒業生を輩出している、このことが大学を強くしている。さらに広げていけるように、力を合わせて頑張りましょう」と笑顔で呼びかけた。

その後、卒業後60・50・40・30・20・10年に当たる特別招待校友をそれぞれ代表し、▽元㈱ロイヤルパークホテル代表取締役社長で

元(一社)日本ホテル協会会長の中村裕氏(二九六三年政経卒)・当会会員▽(公財)講道館館長で一九七六年モンテリオールオリンピック柔道無差別級金メダリストの上村春樹氏(一九七三年政経卒)▽ウエルネット(株)代表取締役社長の宮澤一洋氏(一九八三年政経卒)▽読売新聞東京本社編集局生活部部長の小坂佳子氏(一九九三年政経卒)▽弁護士神林光氏(二〇〇三年法卒)・当会会員▽フリーアナウンサーの野沢春日氏(二〇一三年国日卒)の六氏が、在学中の思い出や現在の仕事、母校への思いなどを語った。さらに、寄付者顕彰制度による表彰、校歌斉唱と続き、記念式典は終了した。

記念式典の後には、講演会やマンドリン倶楽部のコンサートなど、学生らによるパフォーマンスなど多数のプログラムを開催。学生団体による初のストリートピアノ企画、恒例のくじ引きや物産展、キッズコーナーも多くの人が楽しんだ。

●プロ野球ドラフト会議

硬式野球部から三選手が指名

プロ野球ドラフト会議が十月二十六日、東京都内で行われ、体育会硬式野球部の主将・上田希由翔選手(国日4)が千葉ロッテマリーンズから一巡目、石原勇輝選手(商4)が東京ヤクルトスワローズから三巡目、副将・

村田賢一選手（商4）が福岡ソフトバンクホークスから四巡目でそれぞれ指名を受けた。

硬式野球部合宿所（府中市）には多くの報道陣が集まり、山本雄一郎部長（商学部教授）、田中武宏監督と共に記者会見に臨んだ。「強みである勝負強いバッティングでファンの方に応援されるような選手になりたい」（上田選手）、「ストリートで空振りを取り、一軍で活躍できる投手になりたい」（石原選手）、「素晴らしい選手が多くいる中で勝利数にこだわり、任された役割を全うしていきたい」（村田選手）と、それぞれ指名の喜びとプロ入り後の抱負を語った。会見後には硬式野球部員が胴上げで祝福。仲間たちからの熱い激励に、三選手は喜びを噛みしめている様子だった。

今回の指名で、本学硬式野球部からは史上最長となる十四年連続のドラフト指名となった。また、本学出身者では体育会準硬式野球部OBの高島泰都選手（二〇二二年法卒）がオリックス・バファローズから五巡目指名を受けた。

●競走部

箱根駅伝予選会を2位突破

二〇二四年一月二日～三日に開催される第一〇〇回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）への出場校を決める予選会が十月十四日に行われ、体育会競走部は2位で本大会へ

の出場権を獲得した。

予選会は、一大学十二人までの選手がハーフラマソンコース（二一・〇九七五km）を同時に走り、大学ごとに上位十選手のタイムを合計。この十選手の合計タイム上位十三校が、箱根駅伝本大会への出場権を手にする。五十七校が挑んだ今回の予選会は、レース序盤から上位十選手の合計タイムで上位をキープし、15km通過地点で首位に立ち、最後は10時間34分38秒の2位で六年連続六十五回目の本大会出場を決めた。

十月二十二日に開催された明治大学ホームカミングデーでは、生涯学習機関・リバティアカデミーのオープン講座「競走部の新たな挑戦」箱根駅伝古豪から強豪への道」が明治大学校友会寄付講座として開講された。講座には競走部の園原健弘監督、山本豪駅伝監督と選手らが登壇し、予選会について振り返った。山本駅伝監督は、「箱根駅伝に向けて選手層が厚くなり、チーム内で良い競争が生まれていると思う。シード権獲得に向けて頑張りたい」と述べ、箱根駅伝本大会への意気込みを語った。

●総合数理・宮下教授にイグ・ノーベル賞

総合数理学部の宮下芳明教授と東京大学の中村裕美特任准教授（受賞対象論文の発表時は明治大学大学院博士前期課程に在学）が、

イグ・ノーベル賞（栄養学）を受賞した。イグ・ノーベル賞は、ノーベル賞のパロディー（裏ノーベル賞）として「人々を笑わせ、そして考えさせる研究」に対して贈られるもの。科学ユーモア雑誌「Annals of Improbable Research」の編集者マーク・エイブラハムズ氏により一九九一年に創設。ノーベル賞と同じく複数の部門があり、毎年五〇〇以上の研究や業績の中から選考される。授賞式は九月十四日にオンラインで行われ、一九九六年にノーベル生理学・医学賞を受賞したピーター・ドハーティ氏によって授与された。

今回の受賞は、宮下教授と中村氏が二〇一年に発表した論文「Augmented Gustation using Electricity」に対するもの。この論文は、微弱な電流を流すストロー・箸・フォークによって飲食物の味を変えて食体験の味覚を拡張するビジョンを掲げたもので、二〇二一年にも、発表後十年間多く引用され広くインパクトを与えた論文に与えられる「Lasting Impact Award」を Augmented Humans 2021 で受賞している。受賞した宮下芳明教授のコメントを以下に掲載する。

*

今回の受賞をとっても光栄に思います。

受賞対象論文は十三年前に開発した技術に関するものですが、電気味覚技術や味覚メ

ディテア技術はその後、多方面にわたる発展と社会実装に至っています。そうした広がりや今後への期待が込められた受賞だと捉え、これからも研究を推進していきたいと思えます。

●進学ブランド力調査二〇二三

「志願したい大学」三年連続二位

リクルート進学総研が七月二十七日に発表した「進学ブランド力調査二〇二三」ランキング「志願したい大学」（関東エリア）で、明治大学が三年連続で二位となった。

この調査は、リクルート進学総研が大学に対する志願度、知名度、イメージを把握することを目的に行っていて、今年で十六回目。二〇二三年四月に関東・東海・関西の各地区の高校三年生約十五万人を対象として実施され、五千九百七十三人の回答から集計された。男女別調査では男子・女子とも二位、文理別では文系で三年ぶりに一位、理系で三位となった。さらに、分野別では「法律・政治」「経済・経営・商」「社会」「情報」の四分野で一位となった。

大学イメージランキングでは、「学びたい学部・学科がある」で一位（昨年十二位）、「キャンパスがきれいである」で二位（昨年二十六位）、「明るい」で二位となるなど、多くの項目で上位に本学が挙がっている。二〇二二年四月に竣工した新教育棟「和泉ラーニ

ングスクエア」をはじめとする本学の教育改革や教育環境改善の取り組みが、受験生から高い注目を集めていることが明らかになった。

★志願したい大学トップ5（関東エリア）

- 1 (1)早稲田大学……九・二%
 - 2 (2)明治大学……八・九%
 - 3 (3)青山学院大学……七・三%
 - 4 (4)立教大学……六・七%
 - 4 (6)中央大学……六・七%
- ※()内は昨年順位、%は志願度を表す「進学ブランド力調査二〇二三」リクルート進学総研調べ

●国家公務員総合職試験

合格者三十人に報奨金を授与

国家試験指導センター行政研究所（所長 西川伸一 政治経済学部教授）は十月十三日、二〇二三年度国家公務員採用総合職試験に最終合格した同研究所所属学生への報奨金授与式を、駿河台キャンパス・岸本辰雄ホールで執り行った。

式典の冒頭、あいさつに立った西川所長は、今年度は明治大学全体で四十九人、行政研究所および生田キャンパスでの技術系公務員講座の受講者から三十人の最終合格者が出たことを報告した。さらに、同研究所のガイドブックに「行政の中核に多くの明治大学卒業生が入ることで、この国はもっと良くなると

確信している」と文章を寄せたことを紹介し、「皆さんの努力の結果、着実に実現されつつあることをうれしく思う」と述べ、合格者らを祝福した。続く大六野耕作学長は、「大切なことはこれからも初心を忘れずにいること。このことを常に念頭に置いて活躍していただければと心から願っている」と激励した。

合格者を代表して謝辞に立った江森実希さん（文4）は、行政研究所をはじめ関係者への謝辞とともに、「物事を多角的な視点から観察し、主体的な判断に基づいて行動することができる明大生は、わが国を必ず良い方向に向けることができると確信している。明治大学の名に恥じないよう精進したい」と決意を述べた。

●情報コミュニケーション学部

映画界のスペシャリストたちが語る

「創造と表現」

情報コミュニケーション学部は十月十三日、和泉キャンパスで特別講義「映画界のスペシャリストたちが語る『創造と表現』」を開催した。映画界・映画産業の第一線で活躍する四人のゲスト講師を招き、パネルディスカッションが行われ、情報コミュニケーション学部生など約百二十人が受講した。

登壇者は、(株)ホリ・エージェンシー代表取締役社長の小野田丈士氏（一九八〇年政経

卒)、東宝東和(株)代表取締役社長の山崎敏氏、スタジオ地図(株)地図)代表取締役の齋藤優一郎氏、松竹(株)のエグゼクティブプロデューサーで(二社)日本映画テレビプロデューサー協会会長も務める奥田誠治氏(一九八〇年政経卒)の四人。デイスカッションでは四人のこれまでの経歴を簡単に振り返りながら、それぞれの業界内で実現してきたことや苦労したこと、さらに、学生に向けて大学生活やキャリア選択に向けたアドバイスが送られた。俳優・タレントのマネジメントという視点で、「挑戦したいことがあれば、その時にやれることを精いっぱいやれば何かが見えてくる」とエールを送った。洋画配給会社で数々のヒット作を手掛けてきた山崎氏は、学生の進路選択について、「どの業界であつても縁を大切にし、自分なりのベクトルを持って扉を開いてみよう」とアドバイスした。

齋藤氏はアニメーション映画『竜とそばかすの姫』など細田守監督作品のプロデューサーとして活躍してきた。自身の米留学経験を振り返り、「言語にこだわらず、コミュニケーションを取ろうとする姿勢が大事」と語りかけた。奥田氏は、大学卒業後日本テレビに入社し、スタジオジブリ作品や実写作品で多くのヒット作をプロデュースしてきた。また、奥田氏は、今回のデイスカッションの

進行を務め、業界の第一線で活躍するスペシャリストたちの貴重なエピソードやアドバイスを引き出した。

デイスカッション後には質疑応答なども行われ、満員の会場から大きな拍手が送られる中、終了となった。

●理工学部

●聖マリアンナ医科大との共同研究会

二〇二三年度の「明治大学・聖マリアンナ医科大学共同研究会」が九月十六日、生田キャンパスで開催された。本学と同大は二〇一三年に大学交流に関する包括協定を締結。この研究会は、両大学の抱える研究ニーズ(需要)とシーズ(種)に関する報告会やポスターセッションを通して、双方の研究への理解と新たな共同研究の発足を促すことを目的として企画され、六回目の開催となった今回は両大学合わせて約五十人が参加した。

冒頭、聖マリアンナ医科大学の北川博昭学長と、明治大学の立川真樹理工学部長があいさつに立った。立川理工学部長は「全学共通総合講座の『先端医療概論』という授業では、聖マリアンナ医科大学の先生方にオムニバスで授業を実施していただいている、毎年百人を超える学生が受講している」と、同大との教育面での交流の実態を紹介するとともに、「両大学の連携で、将来の医療の進展に貢献

できそうなシーズが備わっていると感じる。今日は活発な議論をしていきたい」と期待を述べた。

第一部「共同研究紹介・研究発表」には、理工学部から相澤守教授、工藤寛之准教授、農学部から河野菜摘子准教授が登壇し、さまざまなテーマで発表が行われた。続く第二部「ポスターセッションおよび交流会」では、助教や大学院生、学部生も発表するなど若手研究者を中心に両大学間で活発な意見交換が行われ、盛会のうちに終了した。

●博物館

●シェイクスピアプロジェクトの記念展示 第Ⅱ期が開幕

明治大学シェイクスピアプロジェクト(MSP)は、今月二十回目の公演を迎えた。明治大学を代表する文化イベントとして、また日本最大規模の学生演劇として学内外で高い評価を得ているプロジェクトの取り組みを紹介する展示「明治大学シェイクスピアプロジェクト二十年の軌跡」第Ⅱ期が十一月八日に開幕した。関係者の証言や写真パネル・記録映像によって二十年の歴史を振り返り、衣装や小道具に加え、舞台美術に関わるデザイン画、楽譜、演出ノートなど、学生にとつての等身大のシェイクスピアがどのように具現化されてゆくのかを紹介している。会期は十二月十

六日まで。十二月一日と九日には関連イベントとして短編ミュージカル公演も予定。

●米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館
台湾漫画史不思議旅行

―貸本屋さんと漫画の一〇〇年―展

米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館の一階展示室で、「台湾漫画史不思議旅行―貸本屋さんと漫画の一〇〇年―展」（以下、台湾漫画展）がスタートしている。開催初日の十月六日には関係者が集まり、内覧会も開催。

内覧会には、来日した国立台湾歴史博物館の莊佩樺副館長と同館漫画組・黃悠詩氏も参加し、マンガ図書館・村上一博館長や館職員との交流を深めると、二階閲覧室を見て回ったり、台湾漫画展を鑑賞しながら展示の完成を祝した。ギャラリートークでは、黄氏が身振り手振りを交えながら台湾漫画と貸本屋の歴史について熱弁する姿も見られ、この展示が「貸本屋」というキーワードのもと台湾と日本のマンガ文化をつなぐ重要な接点となっていることが分かる。

台湾漫画展は、台湾における貸本屋の歴史変遷を中心に、どのような漫画が読まれ、流通し、制作されてきたのかを一望するものだ。日本統治期から貸本屋が普及していく一九六〇年代までを紹介する1期、厳しい検閲の下で工夫を凝らし生き延びた漫画家・編集者た

ちを中心に六〇〜九〇年代を紹介する2期、台湾貸本屋の黄金期だった九〇年代以降から挑戦を続ける現代の貸本ビジネスについて取り上げる3期に分かれ、それぞれの期でしか見ることのできない貴重な資料が展示される。本展と合わせて開催される、関係者によるオンライン・トークイベントにも注目だ。

★米沢嘉博記念図書館・現代マンガ図書館

台湾漫画史不思議旅行―貸本屋さんと漫画の一〇〇年―展

<https://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa-lib/exh-taiwanhtml>

会場：明治大学 米沢嘉博記念図書館・現代

マンガ図書館 一階

東京都千代田区神田猿樂町一―七―一

☎ 〇三―三二九六―四五五四

会期：十月六日〜二〇二四年二月十二日

開館：月・金十四時〜二十時／土・日・祝十

二時〜十八時

休館：火・水・木（ただし祝日の場合は開館）

冬期休館：十二月二十六日〜一月十一日

※特別整理などで休館する場合がありますので、HP、開館日に電話にて確認のこと。

●金融トラブルセミナーをオンラインで開催

学生支援部は十月十二日、全明大生を対象に、オンラインでの金融トラブルセミナー『純粹だな、これサギだよ』知らない間に被

害者に〜』を開催した。講師にSMBコンシューマーファイナンス株の中村翔平氏を招き、多くの学生が受講しやすいようランチモジュール（昼休み）の時間にZoomのウェビナー形式で開催された。

セミナー開催の背景として、二〇二二年四月より成年年齢が十八歳に引き下げられたことよって特に大学一・二年生が悪徳商法や詐欺などの被害に遭いやすいという状況がある。中村氏は、これまで親権者の同意が必要であったさまざまな契約や、「未成年者取消権」が適用されなくなったことから、若い世代がこれまで以上に狙われるようになっていくと解説した。その後、フィッシング詐欺（金融機関や企業、知人などを装って、偽のメールやウェブページから個人情報情報を盗み出す詐欺）や、銀行口座等の名義貸しの被害について説明された。さらに、悪質なマルチ商法について、従来は健康器具や化粧品などが中心だったが、最近では暗号通貨投資商品や、アフィリエイトを使ったインターネットビジネスなど形のない商品を対象とした、いわゆる「物なしマルチ」と呼ばれるものに移行しつつあることが紹介された。

最後に、消費生活センターや法テラス、大学の学生相談室などの相談窓口が紹介され、「何らかの被害に遭った場合には一人で抱え込まずにまず相談しよう」とアドバイスが送

られ、セミナーは終了となった。

セミナーを企画した学生支援部の担当者は、「今後も学生がトラブルに巻き込まれないように、知識や判断力向上につながるような啓蒙活動を続けていきたい」と述べた。

●体同連サイクリスツーリングクラブ

北海道・浦幌神社に「自転車お守り」提案

体育同好会連合会（体同連）のサイクリスツーリングクラブが八月二十六日～三十日に北海道十勝郡浦幌町で合宿を行った。期間中、地域の浦幌神社のお祭りへの参加や、自転車交通安全を呼びかける啓発活動、同神社のお守りのデザインの提案などを行った。

八月二十七日に行われた浦幌神社の夏季神輿渡御祭では、十八人の部員が地元の方に混ざって神輿を担ぎ、浦幌の市街を回った。休憩時間中には自転車の交通安全を呼びかけるチラシの配布も行った。

翌日には浦幌神社で自転車の安全祈願を行った。浦幌神社はツーリング安全祈願による「オートバイの神様」として全国的に有名で、多くのライダーが訪れる。今回訪問した同部員らに向けて自転車交通安全神徳宣揚として自転車安全祈願の神事が執り行われた。

さらに、部員らのアドバイスを取り入れ、自転車のデザインをあしらい明治大学のスクールカラーである紫紺を基調としたお守り

や、自転車に貼るステッカーが製作されることとなった。同部主将の井上彰太さん（営3）は「今後全国から自転車で参拝する方が増えれば、地域振興につながるかもしれない」と期待を寄せる。

●水泳部

インカレで男子が総合優勝

体育会水泳部は、八月三十一日から九月三日にかけて東京アクアティクスセンター（江東区）で行われた第九十九回日本学生選手権水泳競技大会（以下、インカレ）に出場し、男子総合成績で2位の日本大学に77・5点の差をつけて優勝した。女子も総合8位でシード権維持を達成した。

男子百メートル背泳ぎで柳川大樹選手（政3）、男子二百メートル平泳ぎで廣島偉来選手（政3）、男子4×百メートルメドレーリレー（松山陸選手（商4）、小嶋壮選手（情2）、成嶋義徳選手（政1）、五味智信選手（商3））で金メダルを獲得するなど、四日間合計で男子は10個、女子は3個のメダルを獲得した。

同部の林太陽主将（商4）と水口知保女子主将（営4）はそれぞれ「苦しい時期もあったが、最高の結果となり達成感でいっぱい。来年はさらに強いチームになってほしい」（林主将）、「四年間の集大成を最高な形で締

めくくれた。明治大学水泳部に結果で恩返しできたと思う」（水口主将）と振り返った。

●ソフトテニス部

インカレ男子団体で優勝

体育会ソフトテニス部は、九月二日・三日に和倉温泉運動公園テニスコートほか（石川県七尾市）で開催された二〇二三年度全日本学生選手権大会に出場し、男子団体で見事優勝を果たした。

団体はダブルスで先に3勝した方が勝ち抜きとなるトーナメント方式で行われ、明大は初日の3試合を勝ち抜き二日目は準々決勝からスタート。福岡大学を3―0、早稲田大学を3―1で下し、決勝は強豪・中央大学との対戦となった。金山勇波（営3）・大辻伸彬（農2）ペア、米川結翔（商3）・池口季将（政4）ペアがそれぞれ4―1、3組目の中村悠峰（営1）・岡田侑也（農1）ペアが4―3のスコアで勝ち越し、3―0で見事団体優勝となった。優勝を受け、同部の櫻井智明総監督は「北本英幸男子監督が先頭に立ち、選手の素質をインカレの時期に導き出してくれた功績は大きい。部員全員が指導陣を信頼し、苦しい練習に耐えてきたことを誇りに思う」と喜びのコメントを寄せた。

同部は六月に行われた全日本大学王座決定戦でも優勝しており、全国大会二冠を達成。

◆駿台トピックス

●第二十二回連合駿台会ゴルフ会を開催

連合駿台会の秋期ゴルフコンペが、十月五日、十四名の参加のもと、茨城ゴルフ倶楽部で開催されました。参加者は少なめでしたが、当日は絶好のゴルフ日和となりました。

今回初めて適用したペリア方式による成績結果は、優勝は45・45で回った樽見俊之会員（昭和五十六年・商卒）、準優勝は参加常連の西澤豊会員（昭和四十九年・政経卒）、三位は3オーバーのベスグロで回った山口大介会員（平成十二年・政経卒）でした。

優勝者には、陶芸家竹内裕会員作の優勝カップ、また準優勝と三位には寄贈いただいた陶器のカップ&ソーサーとペアの茶碗が副賞として贈られました。

次回、春期ゴルフ大会は来年四月を予定しております。皆様奮ってご参加ください。



経済、法曹、文化など各界でご活躍の明治大学OB諸氏よ！
来たれ！「連合駿台会へ！」

「連合駿台会」は、1953年に設立された「茗水クラブ」と、1964年に設立された「明友クラブ」が2002年に統合して設立された歴史あるOB組織です。



連合駿台会、70周年記念例会を盛大に開催

残暑厳しい9月14日、ホテルオークラ東京・平安の間において、「連合駿台会70周年記念例会」が盛大に開催されました。来賓には明治大学から柳谷孝理事長をはじめとする大学関係者が多数出席し、200人を超える来場者がありました。

記念式典では、田村駿会長が「連合駿台会は明治大学の今日ある隆盛の礎になってきた。これからも会員としての誇りを感じられる事業運営をしてまいります」とあいさつし、柳谷理事

長からは、連合駿台会が大学の発展に貢献されてきたことへの感謝のお言葉をいただきました。続いて、日本テレビの「笑点」でお馴染みの、三遊亭小遊三師匠（1969年経営学部卒）の記念落語と、藤原歌劇団の名バス・バリトン歌手・三浦克次氏（1980年法学部卒）のミニコンサートがあり、食事の後は、明治大学応援団の華麗な演奏で、来場者全員が輪になって、声高らかに明治大学校歌を歌い、熱気があふれる中での幕となりました。

各界で活躍されておられる明治大学校友のご入会を歓迎いたします



連合駿台会会長
田村 駿
(明治大学評議員会議長)



明治大学理事長
柳谷 孝



三遊亭 小遊三 師匠



三浦 克次 氏

資料のご請求
はこちらまで

連合駿台会事務局

TEL : 03-3296-4747
FAX : 03-3296-4748
HP : <https://www.rengosundakai.jp>
Email : rengosundakai@silk.ocn.ne.jp

★明治大学広報(11月1日号)に掲載された大学への支援広告。今後も2ヵ月に1回掲載していく予定です。

◆創立七〇周年記念例会出席者

○会員出席者

青柳勝栄、秋谷勝俊、浅井宏、安達明正、阿部倫明、有賀隆治、池田一義、石川かおり、同ご夫君・ご令嬢、石川均、石田和士、泉山和久、同令夫人、伊東正博、伊原敏雄、今村健、岩田守弘、上田廣一、上西紘治、同令夫人、宇川一夫、潮田伊佐夫、梅野修、浦川竜哉、榎本知佐、大澤健太郎、太田良治、大竹卓也、大竹夏夫、大野正美、大原幸男、大前実之、大村託現、奥住賢二、奥村勝広、尾暮敏範、落合由行、同令夫人、鬼塚和也、小山的哲郎、金井健、金子圭太、狩野省市、栢森靖百木田康二、河原章、河村博、神田達治、神林光、北野大、木下唯志、木村健一、清野明男、草木頼幸、杓掛栄二、國井泰成、久保聡、久保田達之助、黒崎昭男、小池康浩、児玉圭司、小松健、五味道雄、小山修、小山有彦、同ご友人、根田哲雄、根田吉雄、齋藤柳光、三枝富博、坂田英夫、坂本道昭、佐藤仁、同令夫人、佐藤陽子、同ご友人、佐野公哉、澤野太嘉嗣、志田憲彦、柴尾雅春、柴田清之、杉浦伸二、鈴木紘一、鈴木隆志、関口勝裕、関根宏一、関根均、瀬戸正道、相臺志浩、園部洋士、高澤徹、高澤尚志、高橋淑浩、高見克司、高村昌秀、田口幸隆、竹内太一、武内裕、竹中繁夫、田中等、谷原誠、田村駿、田

村健、樽見俊之、辻井知明、天童美德、同ご友人、当山明彦、徳丸平太郎、富田浩志、富水流孝二、永井伸彦、長岡信裕、中川敏洋、中里猛志、中澤良平、長瀬琢磨、中村康一、中村豊、二井康夫、西澤豊、萩原裕次、長谷川進一、長谷川俊也、畠中君代、幡谷公朗、埴英幸、馬場範夫、濱田憲孝、林威樹、原宏平田桂子、平田静子、廣江研、深代尚夫、同ご友人、福田和彦、福見勉、藤代耕一、古本英樹、堀越孝、真家裕介、眞壁八郎、楨野泰、同ご友人、松崎優子、同ご夫君、水澤元博、同令夫人、水谷浩、宮下隆、向井眞一、向殿政男、村岡健、村山友彦、室井恵明、本橋尚樹、森一朗、安田信幸、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、山田勝、山根俊明、山村明好、弓野理恵、吉田光一郎、同ご令嬢、吉田信行、同ご友人、吉田均、芳村正徳、渡邊健三、同令夫人、渡邊能宏、矢嶋まゆ子、同妹

○明治大学ご招待者

柳谷孝、田部井茂、岡安孝弘、荒川利治、尾島育四郎、尾関直子、奥山弘幸、三木一郎、大野友和、清水秀夫、出見世信之、山本昌弘、渡邊友亮、乾孝治、上野正雄、中林真理子、藤永修一、立川直樹、大倉学、村上一博

○その他ご招待者

三遊亭小遊三、三浦克次、同令夫人、吉田菊次郎 (敬称略)

【編集後記】

断捨離半ばの書棚に一冊の芳名録が遺っている。学生時代に明治大学東南アジア親善踏査隊として学生交流で六カ国を訪ねた際の派遣費をご寄付いただいた方々の署名録である。久しぶりに開いた。身が引き締まった。そこには、連合駿台会の前身である茗水クラブ三代目会長の宮藤和夫丸善石油社長はじめ諸先輩や関係会社が記されていたのである。

芳名録の存在を思い出したのは、先の七〇周年例会にこ来賓いただいた同期生の吉田菊次郎さん(パティシエブルーミッシュ会長)に五十八年ぶりに邂逅できたからだ。実は、語学が堪能でアジア情勢に詳しい吉田さんに派遣メンバー入りをお願いした。残念ながら固辞されたが、吉田さんには大学に近い神田淡路町の事務所を無償で提供してくだるなどあれこれ尽力いただいた。おかげで事ほとんどん拍子に進み、大学はもちろん、海外渡航自由化やオンラインピク直後など時宜も得て外務省や東京都からもお墨付きを頂戴した。ところが、肝心要の派遣費がおぼつかない。学内でハーモニカソサエティー・コンサートを主催するなどカンパ活動し、親の腰もかじりにかじった。とはいえ一ドル三百六十円時代。目標には遠く及ばない。大きな壁に断念の二文字さえ頭をよぎる。そんなところへ有力OBから寄付を募るといふ妙案をアドバイスしてくれたのも吉田さんだった。勇躍、芳名録を手を駆けずり回った。起死回生。ついに目標五十万円が達成できたのだ。

隊長のOBと私ら現役三隊員、行きは羽田から大枚はたくも生きた心地のしないオンボロ機でブロンペンへ、帰りは路銀もつきてシンガポールから貨物船で船酔いしっ放しの十日間、途次のタイでは私が風土病に倒れる危機にも直面した。波乱万丈の八十日間。とはいえ、揃いのブレザーの胸に日の丸と大学徽章を付けた日本人の学生隊は当時では珍客だったのだらう。行く先々で歓迎され、新聞雑誌の取材を受けラジオにも出演した。そして、マレーシア連邦のラーマン首相など各国首脳に謁見できる望外の栄誉にも浴した。

全ては吉田さんのおかげ、連合駿台会の先達方による「母校への支援」の賜物だ。七〇周年で「恩を思い起こすこと」ができた。感慨はひとしお、あらためて感謝申し上げます。

(齋藤柳光)